

第18回京二会報告

上席執行役員 大坂 道明

恒例の京二会が、今年も12月の第一金曜日12月7日に開催されました。

講演会のテーマ、「パートナーとしての中国とのモノづくり」～京二本社および京二上海での活動から～、レポーターとして、弊社中国事業担当執行役員 兼 京二（上海）機電科技有限公司副総経理 俞箴潔^{ユシンケツ}が講演を致しました。

俞箴潔は中国で20年間、日本で15年間の生活経験があります。又その内の7～8年間の営業活動から、両国間の歴史・文化・考え方・感覚の違いを交えながら、前半Ⅰ：日本での中国商品の取り組み、後半Ⅱ：中国での工場の運営・製造業との付き合い方等について述べました。

前半Ⅰ（日本での中国商品の取り組み）：

1. 中国商品調達のメリット・デメリット：

メリットから述べると、一番がコストダウン、次に一国集中調達のリスク回避、日本ですでに廃止になった旧商品の調達、中国工場進出時の即適用対応である。デメリットについては、品質、納期、技術サポート等が考えられるが、品質については、最新鋭の機械導入と自動化等で日本と遜色がないほど進歩し、納期・技術サポートについては、中間に入る商社の取り組み如何で90～95%ほどは解消できている（事実京二として実行している）。

2. 日中間の商取引の感覚の擦れ違いについて(中国人の感覚視点で)：

①納期は重要案件であれば督促を強化することが必要。②日本の技術について要求高く、価格叩きが厳しく、テスト時間が長く、採用不安が大きい。③図面について良いと思えば勝手に設計変更。④契約は契約にある内容のみ実行。⑤クレームは外部環境、他部署転嫁し、言い訳が多い。⑥運営は能力主義で個人プレーが多い。

3. 中国からの調達を成功させるには：

①信頼できる輸入商社と組む。②工場への定期訪問と品質監査の実施。③出荷前のチェック要求。④信頼関係の構築。⑤仕入先メーカーの実力の見極め。

後半Ⅱ（中国での工場の運営・製造業との付き合い方等について）：

1. 日系工場の調達傾向について：

①標準品、日本製。②特殊品、出来るだけ現地調達。③機械、精密加工は日本製、粗加工は中国製。④測定器、日本製とヨーロッパ製。⑤備品、中国製。⑥電動工具、日本製。

2. 中国での生産コストを抑えるためには：

①人件費の社会保険金、公積金についてよく理解する事が必要。②適切な購買を行うには、どこから買うか（場所、流通ルート等）、購入ルールをつくること。③日常経費のチェック。

3. 契約について：

基本的には日本と同じだが、特に注意することは、契約言語が中国語か日本語か。日常の契約・支払条件等は毎回、責任者が登録された法人と交わすこと。

4. 新規取引開始するには：

中国では前金が当たり前であり、売掛金をつくらないこと。

5. 税関とトラブル起こさないように：

輸入に当たり、先ず必要な手続きをすること。
違反⇒当局のブラックリスト⇒刑事罰⇒企業ダメージ

6. 現地の仕入れ先とトラブルを避けるためには：

①工程から出荷梱包まで三現主義の徹底。②代金は後払いで、前払いでも保証金程度にする。全額前払いは断固ことわる。

以上で講演を終え、盛況のうちに京二会を終えました。 以上